

⑦ 高大連携を利用した、生徒のコミュニケーション能力の育成を目指した指導法の研究

・概要

6月から流通経済大学の桑野佳明教授を講師として迎えた。「英語コミュニケーション演習」と題して、参加生徒の希望を募り20名で開始した。全15回の演習を（期間内は毎週金曜日に約90分程度で実施）第1期から第3期までに分け、第1期（3回）で英語レシテーション（3回目がコンテスト）、第2期（5回）で英語スピーチ（4回目、5回目がコンテスト）、第3期（7回）でディベート（6回目、7回目がコンテスト）を実施した。

・実施内容及び成果

日程	第1期 英語レシテーション
	①6月11日（金） ②6月18日（金） ③6月25日（金） コンテスト
第2期 英語スピーチ	
	④7月9日（金） ⑤7月16日（金） ⑥7月30日（金）
	⑦⑧8月27日（金） コンテスト
第3期 英語ディベート	
	⑨9月17日（金） ⑩9月24日（金） ⑪10月29日（金）
	⑫11月5日（金） ⑬11月26日（金） ⑭⑮12月17日（金） コンテスト

<第1期>

第1期ではまず、英語での講義に慣れることから始まった。自己紹介から英問英答と進み、生徒は反応よく答えていた。第1回、第2回の講義の中で、人前で発表する際に、表情の豊かさ、間の取り方の重要性、いかに感情を表現するか、どのように抑揚をつけて聞き手に訴えるか等の点について「能面」や指人形を用いたユニークな説明を受けた。（*資料11）レシテーションの課題はケネディー大統領の就任演説の一部を暗唱するもので、重要語句の解説こそあるものの、内容的にはなかなか難しいものであった。低学年の生徒は内容をつかむことで苦勞していたが、日本語訳に頼りすぎないようにとの助言をいただき、短期間ながらかなりの量を暗記することができた。上級生ほど内容をよく理解しながら、落ち着いた態度で正確に発表することができた。

<第2期>

第1期で、他人の原稿を感情を込めて暗唱することや人前で発表する際のポイントを指導されたことに続き、第2期では次のステップとして、自分の意見を発表することに目標がおかれて講義が行われた。まずはトピックの選び方、自分の考えのまとめ方の指導を受け、文章を論理的に展開する手法などを具体例を挙げながら詳細な説明を受けた。また、夏休み中の最後の講義の中では早口言葉などを利用し発声練習を行ったり、スピーチの際の基本的な態度なども指導された。そして最後に自分で書いた原稿の添削を受け（必要に応じて E-mail や実際に桑野教授の研究室を訪れる生徒もいた。）、原稿を完成させ、最終日のコンテストに臨んだ。スピーチの内容は趣味やクラブ活動、好きな映画、尊敬する人物、自分の生まれ育った町など身近なものが多く、自分で書いた内容だけに、第1期のレシテーションよりもスムーズに進み、演習の成果から堂々とした発表となった。演習開始当時よりも英語に対して遙かに積極的な姿勢が見られるようになった。コンテストのジャッジは桑野教授ともう一人ネイティブスピーカーを依頼し、二人で協議して行われた。

<第3期>

第3期ではディベートの説明から行われた。日本語でのディベートも慣れていない生徒にとって、ディベートの基本的な考え方や進め方など理解がしにくい部分が多かったようだ。講義の進行もややペースダウンしたが、「家族でペットとしてドーベルマンを飼うかどうか」という具体的なテーマでの事例を検討することで理解ができたようだ。実際に取り組むテーマとして「熊を保護すべきか否か」が与えられ、それぞれ自分の立場で意見をまとめる練習が始まった。本来であれば、自分の意見（立場）の根拠となる事項を生徒自ら調べるところから始めるべきところではあったが、時間的な問題から桑野先生が参考になる資料を用意してくれた。生徒は資料の中から利用できるものを選択し、自分の考えをまとめコンテストに臨んだ。コンテストにおいては人数の関係から、桑野先生に対して意見をぶつけるという形で行われた。ディベートという点では物足りない部分もあったが、生徒達は慣れないながらも英語で先生の意見に対して自分の意見をまとめて発表することができた。

*資料11 「英語コミュニケーション演習資料」